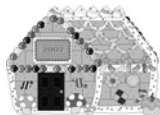


てこな・ミュージズ・ジャーナル



オペラ落語



●親子で楽しいクリスマス オペラ落語「ヘンゼルとグレーテル」
落語ファンにとっても、オペラ、ミュージカル大好きな方々にも、お勧めコンサートのご紹介です。それはクリスマスの時期、お子様連れに贈る「ファミリー オペラ落語 亜郎のヘンゼルとグレーテル」です(12月12日(土) 行徳文化ホールI&I)。

●0歳児にオペラ、落語オペラ? 亜郎?

0歳からのコンサートは各地で注目されています。もっとも大きなものでは、ゴールデンウィークに東京、有楽町の国際フォーラムを舞台に繰り広げられる「ラ・フォル・ジュルネ」での5004人収容会場における「0才からのコンサート」でしょうか。曲目はお子さま用ではありません。例えば今年はバッハがテーマでしたから「バッハ ヴァイオリン協奏曲より」や「ブランデンブルク協奏曲より」です。当財団でも0歳からのコンサートをしています。曲目はモーツァルトの交響曲第40番やピアノ協奏曲からといったような決して幼児向けでは

●グレーテル

随分昔、小さい頃に手にした絵本のグリム童話、そこで印象的だったのはお菓子の家です。

200年前に編集されたグリム童話は言い伝えられてきた物語を記録したものですから、風習、因習などを伺い知ることができます。例えば、「ヘンゼルとグレーテル」は苦しい農村生活の中での口減らしという悲惨な物語りが底辺に流れています。

市川市文化振興財団 音楽総合プロデューサー 小坂 裕子

グリムが編み出した「ヘンゼルとグレーテル」は、継母がきこりの夫に2人の子供を森に棄てることを提案するところから物語が始まります。森に棄てられた子供たちは、お菓子の家に誘われて魔法使いにつかまります。ヘンゼルは犬小屋に閉じ込められて食事を与えられ太らせられ、グレーテルはこきつかわれます。魔女がヘンゼルを食べようと決めた日、グレーテルは魔女をだまして燃え盛るかまどにつき落として殺します。魔女がいなくなると、小屋の中には宝石や真珠が一杯。それを2人は後悔する父親が待つ、森の近くの家に持って帰りました。継母はすでに死んでいて、3人は幸せに暮らしました。

●オペラ「ヘンゼルとグレーテル」から亜朗創作「オペラ落語」へ

このグリム童話をもとにオペラにしたのが、19世紀半ばにドイツに生まれたE.フンパーディンクです。登場人物の設定は変えられ、父親ペーターの職業はほうき作り。母親は継母ではなく実母で、森に子供たちを追いやったのは、壺を割ったおしおきのためです。森に行っていちごをたくさん摘んでくるように命じられたヘンゼルとグレーテルは、遊んでいるうちにお腹が空いて、いちごを全部食べてしまいます。暗くなってしまった森の中、2人が出あうのは眠りの精や14人の天使たち。朝になると露の精も現れ、やがてお菓子の家が見えてきます。2人は壁をむしゃむしゃ。魔女が出てきて呪文をかけて2人を捕まえてしまいます。このあたりはグリム童話と同じですが、魔女がほうきに乗って飛び回るなど、なかなか楽しげな場面が付け加えられています。魔女がかまどで焼け死ぬと、呪文で垣根にされていたたくさんの子供たちが自由になって飛び跳ね、そこに2人を捜しにきた両親も登場し、喜びの再会となります。

●亜朗さんの手にかかる?

可愛らしいヘンゼルとグレーテル、魔女と天使たち、そして魔法から解放される子供たち、夢と愛らしさに満ちたフンパーディンクのオペラ「ヘンゼルとグレーテル」は、落語家亜朗さんとピアニスト、そしてソプラノ歌手の方々によって、さらに軽快で楽しく忘れられない「オペラ」になるはずです。

何かとあわただしい12月、でもクリスマスもお正月もすぐという心浮き立つ季節。そんなときにぴったりの楽しい亜朗オリジナル「ヘンゼルとグレーテル」、ぜひお待ちしています。